

基本計画別まとめシート

24年度	基本目標1	「みんなで学び合い、話し合えるまち」
	基本計画1-1	福祉人材の育成支援

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域福祉を支える人材育成
------------	--------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	地域福祉の意識を醸成する、継続的な学びの場の提供	—	A	→
2	ライフステージに応じた福祉学習の推進	—	B	→
3	地域福祉専門人材の育成、拡充	—	A	→
4	福祉専門人材の育成・確保のための組織創設	—	A	→

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) 24年度に「福祉人材開発センター」が一般社団法人として社協から独立し、高齢者の分野の福祉人材開発を担う事となった。
今年度の実施状況	・出張講演会(全26回)は、防災(11回)介護保険(10回)に関心が高い。地区社協のテーマは6回。 ・福祉施設職員研修会は年6回開催した。 ・福祉教育、生涯学習、広報のあり方についてはボランティアセンター運営委員会内で検討した。
課題等	・各種講座についてはさらに広範囲でのニーズの把握が不十分。 ・福祉施設職員研修会の参加人数が昨年度と比べ減少している。 ・福祉専門人材の育成・確保・周囲の状況変化への対応についての対策。

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	・福祉教育、生涯学習、広報のあり方についてはボランティアセンター運営委員会の検討結果を受け、順次取り組む。 ・地域の課題やニーズ、講座の市民ニーズなどの調査方法について見直し、よりニーズに合った講座の開催に取り組む。 ・福祉専門人材の育成・確保については、施設職員研修会において階層別研修会の実施を検討、また地域密着型説明会は参加者増に向けた方策を検討し、地域全体の福祉専門人材の確保に取り組む。 ・新規事業の地域福祉コーディネーター養成講座を開催し、専門職のスキルアップまた小地域福祉活動の担い手を育成する。
-------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

24年度	基本目標1	「みんなで学び合い、話し合えるまち」
	基本計画1-2	福祉情報の共有化の推進

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域福祉情報が必要な時に適切に入手できる
------------	----------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	福祉情報が必要な人に適切に届き活用できる、収集・発信、環境の整備	—	A	→
2	小地域内の身近な福祉情報の発信、共有化の推進	—	A	→

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) 特記事項無し
今年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役立つ情報提供に向けた環境整備として、助成金制度についての情報収集を行うと共に、情報提供や収集等広報に関する組織としての基本方針を定めるための検討を実施した。</li> <li>・情報提供手法等は、ホームページのアクセス数の把握やホームページ閲覧時間(滞在時間)等から、どのような傾向が表れているのかを読み取り、今後のホームページによる情報提供方法の改善の検討を行い、広報紙については、新たな読者増に向け、ターゲットの絞り込みについて検討をおこなった。</li> <li>・小地域内の役立つ情報や他団体の情報収集や提供のあり方については、一部の検討にとどまった。社協だよりやHPのボランティア関連の情報提供に関しては、ボランティアセンター運営委員会内で検討し、改善を行った。また、社協だよりにより玉川学園地区社協の枠を設け、継続して情報提供が行えるようにした。</li> <li>・個人情報に関する講習会を「まちカフェ」にて実施。今年度は他地域の事例を紹介した。</li> </ul>
課題等	特記事項無し

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の収集や提供方法についてのルール作りと共に、今年度収集した情報を市民に提供できるようにするためのデータベース化をより一層進め、環境整備を行う。</li> <li>・広報について見やすさ読みやすさを追求し、改善を行っていく。</li> <li>・小地域内における福祉情報や地域福祉活動団体についての情報収集について、まずはその範囲について確認を行った。情報提供のあり方についてはボランティアマップに関連付けて検討、今後も継続して検討を進める。また地域福祉活動に取り組むうえで課題となる個人情報の問題に関して、昨年度に引き続き講習会を実施する。</li> </ul>
-------------	---

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

24年度	基本目標2	「みんなで協力し、創っていくまち」
	基本計画2-1	地区社協を各地で設置

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域課題のいくつかが、地域住民の力で解決されている
------------	---------------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	小地域住民福祉活動の取り組みを推進し、地域の实情に合わせた地区社協の設置	—	A	→

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等)
今年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ニーズの高い「防災講演」と組み合わせて地区社協の説明(講演)を実施し、地区社協についての普及に努めた。</li> <li>・隔月に開催している南町田福祉ネットワーク会議において地区社協設置に向けた話し合いを継続して実施した。</li> <li>・地区社協設置場所について、当初予定していた施設が使用できなくなったため、あらたに「リエゾン」を設置場所とした。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に地区社協のPR不足・新たな地区社協設置場所の確保について。</li> <li>・地区社協立ち上げに向けてのスケジュールの変更。</li> </ul>

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災講演と地区社協」の出張講演会は継続して実施し、地区社協の啓発を進めながらPRのプログラムを検討する。年間7回を実施予定。</li> <li>・南町田福祉ネットワーク会議については、地区社協設置までのスケジュール・段取りを決め、計画的に設置を進める。</li> <li>・地区社協設立に向けた住民懇談会については、町田市福祉総務課が担当する「地域福祉健康連絡会」に地区担当職員が出席するとともに、市民協働推進課が進める「未来づくりプロジェクト推進チーム地域社会づくり検討会部会、及び外部」の「地区検討会部会」において、福祉総務課と今後の連携について検討を行っていく。</li> </ul>
-------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

24年度	基本目標2	「みんなで協力し、創っていくまち」
	基本計画2-2	小地域の支え合い活動の立ち上げ支援

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	地域福祉情報が必要な時に適切に入手できる
------------	----------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	小地域における市民の支え合い活動等の情報の把握と提供	—	A	→
2	地域の福祉活動団体の支援・育成	—	A	→
3	小地域でのボランティア活動につながる講座開催	—	A	→

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) ・特記事項無し
今年度の実施状況	・小地域の支え合い活動の講座として、町内会自治会を対象に地区社協をテーマとした講座を6回実施した。 ・歳末たすけあい配分について、配分の条件を整理し配分基準を設けた。 ・ボランティア団体交流会を開催(3月)し、100名近い参加で盛況であった。 ・地域版入門講座を3地区(忠生・堺・鶴川)で、新たな市民活動団体等と協働で開催した。
課題等	・地区社協をテーマとした講座を6つの町内会自治会で実施したが、地区社協への理解にまでは結びついてはいない。 ・ボランティアセンター登録団体以外の市民活動団体に関する情報収集の方法は未検討。

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	・ボラセン登録団体の課題やニーズを把握、小地域の支え合い活動団体等に関する情報を収集しながら、歳末たすけあい配分の新規申請団体の発掘に取り組み、地域福祉活動団体への支援・育成につなげる。 ・コミュニティセンターなどで開催する小地域でのボランティア入門講座については、より仲間づくりを意識したプログラム構成を工夫し、活動者の育成を図る。 ・ボランティアセンター登録団体以外の市民活動団体に関する情報収集の方法は引き続き検討をおこなう。
-------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

24年度	基本目標3	「みんなで支え合い、安心のあるまち」
	基本計画3-1	地域生活を支援する取り組みの推進

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	異世代の人々が支え合いながら地域で暮らしている
------------	-------------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	成年後見制度等の活用により、判断能力の不十分な方々等の権利を擁護し、安心した地域生活が過ごせるような取り組みの推進	—	A	↗
2	誰もが自由に利用できる、地域の居場所づくり	—	A	→
3	地域の子ども達の成長を支援する取り組みの推進	—	A	→
4	社協にしかできない、ニーズの高い公的制度外サービス提供の仕組みづくり	—	A	→

3 計画の評価

計画全体に対する ニーズの変化	<p>(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法制度や公的サービスが確立されてくる中で、制度を利用できない方への対応も必要になってきている。その中で複雑、多様化していく生活課題の解決がさらに求められてきているように感じる。</li> <li>・市民後見人の育成について都養成事業が平成25年度で終了することにより平成26年度から区市町村実施の方針となった。加えて、市民の市民後見人に対する関心が高くなり、日頃の個別相談の問合せを多く受けている。</li> </ul>
今年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサロン設置数については23年度の終了時点より微増。サロンがイベント参加時にパンフやチラシの配布を一部のサロンに依頼、PRに努めた。</li> <li>・今年度は専門家による学童保育クラブ巡視を行った。より具体的な事例を挙げ個々の対応を図ることにより保育の充実につながった。</li> <li>・にこにこクラブは、定例会で情報交換を行いプログラム内容の充実に力を入れた。地域での口コミによる参加者が増加し地域の子育て支援につながった。</li> <li>・公的制度外サービス提供の仕組みを検討することについては、その可能性も含めた検討の場をもった。障がい者緊急一時保護所「仲間の家」の利用要件緩和に向けては、そのことがどこまで実現できるのかを確認するために、事業における環境面、体制面の整備を進めるための担当者の検討会議やスタッフの話合いの場を設け、利用者へのアンケート調査も実施した。</li> <li>・成年後見制度推進事業は、普及・相談支援のため、講演会、連絡会等を計画どおり実施した。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサロンスタッフの高齢化や一方で地域に定着をしたという理由から、サロン指定を解除する所が増えてきつつある。</li> </ul> <p>(次ページに続く)</p>

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

基本計画別まとめシート

<p>課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的制度外サービスについては、その範囲を明確にする必要があり、仲間の家の利用要件緩和については、アンケート調査から見えてくるような社会資源の活用ができていない、サービスが足りないといった声と、実際の利用者のニーズとの関係性も含めた見極め。</li> <li>・市民後見推進事業は平成25年度も準備期間とし実施に向けた十分な検討(他社協状況確認等)。</li> </ul>
------------	---

4 次年度以降の方向性

<p>計画の方向性や改善点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区担当がエリアのサロンの現状を把握しながら、参加者増への取り組みや新たなサロン開拓に努める。設置数増に向け、サロン立ち上げ説明会を実施する。</li> <li>・異世代の人々が支え合いながら暮らしていける地域づくりのために今後も検討を進めていく。</li> </ul>
--------------------	---

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)



基本計画別まとめシート

24年度	基本目標3	「みんなで支え合い、安心のあるまち」
	基本計画3-2	複合的な相談に対応できる総合的支援部門の設置

1 基本計画の趣旨

何をどの様にしたいか	複合的な相談に対応できる組織力・職員のスキル向上
------------	--------------------------

2 計画の関連事業

関連事業		前年度の評価	今年度の評価	予算の方向
1	相談者を横断的にとらえ、総合的な相談に対応できる部門設置の検討	—	A	→
2	相談に対応できる、職員体制や研修制度の検討	—	A	→

3 計画の評価

計画全体に対するニーズの変化	(社会環境の変化、制度の改正、市民の意見、緊急性等) ・特記事項無し
今年度の実施状況	・現時点では、職員一人ひとりのスキルアップを図る事が先決と捉え、職員全員がコミュニティソーシャルワーカーとしての力量をあげる事を中心に計画に取り組んだ。 ・一方で、困難事例課題について、解決に向けた取り組みが可能な内容等の整理を行った。
課題等	・24年4月から組織体制を一新したばかりであり、総合的な相談に対応できる部門について早急な設置検討は困難。今後組織体制の見直し時には、検討課題として俎上に載せて行くこととし、現段階では、組織力、職員のスキルアップを図る。

4 次年度以降の方向性

計画の方向性や改善点等	・目指すべきコミュニティソーシャルワーカー像を示し、そのために必要なスキルを身に付け、実践に当たる。また職員をバックアップするために必要な体制を整え、困難事例を含めた情報共有に努め、組織として対応することで、相談者を横断的に捉え、総合的に対応できる職員を目指す。 ・現在実施している相談事業の整理を行い、より市民から求められる相談事業を展開する。
-------------	--

【実績の評価】A 適切・計画通り B 概ね適切・概ね計画通り C 改善の余地がある D 改善する点が多い

【予算】↑大幅に増加(50%以上) ↗やや増加(10~50%未満) →現状維持(±10%) ↘減少(-10%以上)

## 重点計画まとめシート

重点計画1	小地域福祉活動の展開による地区社協の設立
-------	----------------------

項目の趣旨 (PLAN)	<p>社会情勢や地域社会の変容により、制度だけでは解決できない複雑で多様な福祉ニーズに対応するため、地域住民相互によるあらたな支え合いの仕組みとして、小地域福祉活動の展開による地区社協を設置します。</p> <p>また、小地域における支え合い活動を推進し、住民の地域力を高めるための取り組みを行います。</p>
-----------------	---

### 計画期間中の成果指標

前期(H24-H26)	中期(H25-H27)	後期(H26-H28)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広範囲を対象とした啓発的取り組みの検討、実施</li> <li>・設立検討を希望する地域を対象にした取り組み</li> <li>・支え合い活動団体についての調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立検討を希望する地域を対象にした取り組み</li> <li>・ふれあいサロン活動に関心のある方を対象にした取り組み</li> <li>・支え合い活動団体に関する情報提供の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立希望地域を対象にした設立準備会等の取り組み</li> <li>・新規2ヶ所設立</li> <li>・支え合い活動団体についてのしくみ検討の取り組み</li> </ul>



(DO) これまで(今年度)の取り組み	<p>H23 地区社協設置に向けた取り組みとして「みんなで進める地域福祉づくり講演会」の実施</p> <p>H24 出張講演会「防災講演会と地区社協」(10月/1回)</p> <p>ふれあいサロン活動紹介(社協だより)</p> <p>ふれあいサロン開催案内チラシ作成・配布(年4回)</p>
---------------------	---



(CHECK) 達成状況と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域支え合い活動の啓発の一環として、町内会自治会を対象とした出張講演会に地区社協のプログラムを組み実施した(計6回)。</li> <li>・隔月に開催される南町田福祉ネットワーク会議において、地区社協設置に向けた話し合いを継続して実施した。</li> <li>・ふれあいサロンの活動紹介を社協だよりや活動案内チラシを活用して、市民への情報提供に努めた。</li> <li>・市内の支え合い活動団体の活動内容等の把握については、情報収集の方法について検討した。</li> </ul> <p>玉川学園地区社協について、社協だよりに枠を設け継続したPRに努めた。</p>
-----------------	---



(ACTION) これからの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講演会については、希望の多い防災関連と地区社協の説明を組み合わせるテーマを継続して実施、年間7回を目標とする。</li> <li>・地区社協設置場所の確保に向け、計画を大幅に見直し、スケジュール・段取りを決める。</li> <li>・ふれあいサロンの立ち上げ説明会の開催。地域で既に活動しているサロンの情報収集に努める。</li> <li>・住民懇談会は、町田市福祉総務課が担当する「地域福祉健康連絡会」との調整を行う。</li> </ul>
--------------------	---



課題と今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会自治会を対象に、地区社協をテーマとした出張講演会を開催したが、地区社協への理解にまでは至っていない。</li> <li>・地区社協のPR不足。</li> <li>・南町田福祉ネットワーク会議の拠点について、リゾンが設置場所となった。</li> <li>・ふれあいサロン・子育てサロンはスタッフの高齢化や中心となるスタッフの環境の変化などにより、指定を解除するサロンが増えている。</li> </ul> <p>そのため新規サロンを増やす取り組みを継続して行っていく</p>
----------	--



重点計画まとめシート

重点計画2	福祉人材の育成
項目の趣旨 (PLAN)	身近な地域の課題や潜在化したニーズの解決に向け、地域福祉活動を専門に担える人材を育成・支援します。また福祉施設職員の研修会の開催など人材確保への支援を行います。

計画期間中の成果指標

前期(H24-H26)	中期(H25-H27)	後期(H26-H28)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の社会資源、人材および地域力の調査・把握</li> <li>・地域福祉コーディネーター養成講座の検討および実施</li> <li>・市内福祉施設等職員研修会の開催および階層別研修会の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉コーディネーター養成講座の実施および修了生の活動先の開拓</li> <li>・市内福祉施設等職員向け研修会(階層別含む)の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉コーディネーター養成講座修了生の活動フォロー</li> <li>・市内福祉施設等職員向け研修会(階層別含む)の開催</li> <li>・障がい、児童施設職員を対象とした研修の検討</li> </ul>

(DO) これまで(今年度)の取り組み

H24

介護人材開発センターについては、24年度から社団法人化によりセンターは独立。

それまでの基盤づくりにおいて、社協として一定の役割を果たした。

地域密着型説明会の開催(2回)

(CHECK) 達成状況と成果

- ・介護人材開発センターの社団法人化により計画を修正する。
- ・地域密着型説明会(1回)の開催し、高齢者施設に加え障害者施設、児童施設の人材確保に貢献した。参加者167名。
- ・福祉施設職員を対象として、研修会を6回実施した。
- 新規参加者を増やすため、新人職員対象の研修会を1回開催した。昨年に比べ、参加者が減少している。
- ・地域福祉コーディネーター養成講座の次年度開催に向けて検討する。

(ACTION) これからの取り組み

- ・参加者増に向けて会場の利便性を考慮し、開催場所を変更して実施予定。
- ・施設職員研修は内容を検討して実施。また階層別研修会についても実施する。
- ・小地域での支え合い活動などの資源や人材の把握に努めながら、人材育成のための講座等を検討する。
- ・地域福祉コーディネーター養成講座の実施。

課題と今後の対策

- ・地域密着型説明会の参加者は昨年に比べ微減。昨年度の1回目は東社協の共催だが、3年間で終了する事業のため、自主財源での対応は想定している。
- ・施設職員研修は内容の検討に加え、組織運営の向上を図ることを目的とした階層別研修会の実施について検討した。

これまで研修は夜の開催だったが、開催時間や時間設定についても検討する。

- ・地域の福祉課題の解決のため、小地域での支え合いや地区社協での活動者を増やす必要がある。人材育成のための講座や活動プログラムの検討を行う。
- ・地域福祉コーディネーター養成講座は修了後の活動プログラムを想定して実施する。

## 重点計画

重点計画3	成年後見制度等の活用による権利擁護支援の充実
-------	------------------------

項目の趣旨 (PLAN)	関係者、関係機関とのネットワークを強化し、地域住民が活躍できる仕組みが出来ている。
-----------------	---

### 計画期間中の成果指標

前期(H24-H25)	中期(H26)	後期(H27-H28)
関係機関とのネットワーク構築のための広範囲な啓発、市民後見推進事業、監督業務の充実	関係機関との連携の強化、市民後見推進事業開始、後見業務の充実	関係機関との連携のもと相談窓口の強化、市民後見推進事業、監督業務の充実



**(DO) これまで(今年度)の取り組み**  
 成年後見制度等の啓発のため、市内関係機関へパンフレット・リーフレットの一斉送付。  
 市民後見推進事業をH26年度から開始するためのスケジュール作成。  
 社会貢献型後見人の活用を図った。  
 行政担当部署や高齢者支援センター、ケアマネジャー、医療機関、専門職の参加による地域ネットワーク会議を開催し、成年後見ニーズ把握、連携の充実を図った。



**(CHECK) 達成状況と成果**  
 特に金融機関や証券会社、市民センター等でパンフレット、リーフレットの再送付要望あり。  
 11月には第1回市民後見人育成検討委員会を開催し、平成26年度実施に向けた検討内容の確認を行った。  
 地域ネットワーク会議では、困難ケースを基にそれぞれの役割・連携の確認、情報交換を行った。  
 社会貢献型後見人1名が10月に保佐人として選任された。さらに1名の家裁申立を実施した。



**(ACTION) これからの取り組み**  
 さらなる社会貢献型後見人の活用を図る。  
 地域ネットワーク会議の方策について、市とも協力しながら検討を行う。  
 市民後見推進事業実施とともに法人後見・監督についても市とも協力しながら検討を行う。



**課題と今後の対策**  
 地域ネットワーク会議について、関係機関のよりよい連携を図るための会議内容の検討。  
 市民後見推進事業実施に合わせて、法人後見、監督受任について今後の方向性の検討。